

日本学会第7部会夏期公開シンポジウム「わが国における医学と医療の将来」の報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/4634

日本学術会議第7部会夏期公開シンポジウム

「わが国における医学と医療の将来」の報告

金沢大学十全医学会
会長 山下 純宏

平成14年7月23日(火)午後2時から午後4時30分まで、「医学部記念館」において、十全医学会後援で、日本学術会議(Science Council of Japan)第7部会の夏期公開シンポジウム「わが国における医学と医療の将来」が開催されました。第7部会は医学、歯学、薬学の分野の重鎮の方々、33名の会員で構成されています。渡辺洋宇名誉教授がその会員の一人として、十全医学会から選出され活躍されていることは御存知の通りであります。

シンポジウムは下記の順序で進められました(敬称略)。

司 会：鴨下重彦(日本学術会議第7部副部長)

開会挨拶：遠藤 實(日本学術会議第7部長)

挨拶：岡田 晃

(日本医歯薬アカデミー会長、金沢星陵大学学長)

講演1：「高齢・少子化社会での国民生活」

早瀬 勇(金沢星陵大学教授)

講演2：「医学研究の将来」

馬淵 宏(金沢大学大学院医学系研究科長)

講演3：「医学教育の将来」

竹越 襄(金沢医科大学学長)

講演4：「医療の将来」

黒川 清(日本学術会議副会長)

閉会挨拶：渡辺洋宇

(日本学術会議第7部会員、金沢大学名誉教授)

それぞれの演者は詳しいデータをもとに専門的立場から、わが国における医学と医療の将来について展望され、出席者に深い感銘を与えました。特に黒川 清氏の講演は印象的でした。わが国の医療制度の問題点を大胆に鋭く分析し、国民皆保険、診療報酬制、低医療費政策などの問題点、生活習慣病の予防策、公的病院の無駄、縦割り行政の無駄などを指摘し、21世紀に国民が最も願っていることは、「健康で幸せな生活」であることを認識して、政府は今まで「土木建設」に使ってきた予算を、「健康関連産業」に振り向けるべきであることを強調された。

夏休み期間中の平日でありながら、合計179名の出席者で会場は溢れんばかりの盛況でありました。このシンポジウムの意義を理解され、御参加下さいました、医学科、保健学科、がん研、薬学部の先生方に厚く御礼を申し上げます。また、前日から会場の設営、当日の運営、進行、後始末まで御協力頂きました、事務方、集会理事、その他関係各位に御礼申し上げます。

最後になりましたが、当日シンポジウムに先立ち、医学部記念館資料展示室において、遠来の会員の先生方を前にして、「金沢の医学史探訪」を担当して頂きました、寺畑喜朔氏(日本学術会議医史・医哲学研究連絡委員・昭和26年本学卒)に深甚の謝意を表します。

